

住みごち一番・可児 — 若い世代が住みたいと感じる魅力あるまちの創造

今は秋

あのときの
思い出が

心の中に
生きつづけます!

あの時のことで心身ともに
強くなりました!

人とのよい関わりを
知りました!



努力したときの思い出



良本との思い出



思い出は
たから
宝



兄弟との思い出



親友との思い出

特別寄稿
いじめ問題の克服に向けて
 可児市市民部参事 渡辺達也
 わたなべ たつや
 渡辺達也
 子どもは、それぞれがか
 げがえのない存在であり、
 一人の人間として心も体
 も大切にされなければな
 りません。子どもの心や
 体に深刻な被害をもたら
 すいじめは、子どもの権
 利を侵害するものです。
 これは、可児市子ども
 いじめの防止に関する条
 例の前文のことばです。
 子どもにとって一番身近
 にある人権問題は、いじ
 めです。次代を担う子ど
 もが健やかに成長するこ
 とができる環境を実現す
 ることは、社会全体で取
 り組むべき重要課題です。
 所管の担当参事として、
 人権啓発センターをはじめ
 め、市民や事業者の皆様
 とともに子どもたちが希
 望のもてる社会に向けて
 真摯に取り組んでまいり
 たいと思います。

目次

● 特別寄稿..... ①	● 特集 「障がい者人権について」 その② ③
「いじめ問題の克服に向けて」可児市市民部参事 渡辺達也	● コーナー..... ④
● 平成28年度「ぬくもり標語・300字小説」 入賞作品展の開催..... ②	心のドア・可児ぬくもりネットだより ぬくもりまゆちゃん②・他

平成 28 年度「ぬくもり標語・300 字小説」

入賞作品展の開催



テーマ いじめ防止

沢山のご応募
ありがとうございました。

第 1 回

同時開催

いじめ防止
自治体サミット
in 可児

とき 11月20日(日)

ところ (市)文化創造センター アーラ (主劇場・ホワイエ)

時間 午後1時30分～4時15分(開場/午後1時)

入場資格 下記同時開催「いじめ防止自治体サミット in 可児」の**入場券持参者**
(市役所人づくり課：募集済、広報かに 9/1 号掲載)

第 2 回

とき 11月26日(土)～12月11日(日)

ところ (市)図書館本館展示室(1F) [月曜休館]

時間 午前10時～午後7時(火～金)

午前10時～午後5時(土・日・祝日)

入場資格 なし(観覧自由)



同時開催の 行事案内

[市役所・人づくり課主催] いじめ防止自治体サミット in 可児

場所：(市)文化創造センターアーラ(主劇場) 時間：午後1時30分～4時15分(開場：午後1時)

第1部 基調講演

いじめ問題をどう克服するか

●講師：尾木直樹さん

第2部 パネルディスカッション

●コーディネーター：尾木直樹さん

●パネリスト：越 直美さん(滋賀県大津市長) / 倉田哲郎さん(大阪府箕面市長)

坪田知広さん(文部科学省児童生徒課長) / 富田成輝さん(可児市長)

●総合司会：刀根麻理子

参加者募集・問合せ先：可児市役所(人づくり課・人権施策推進係) 宛て ☎(62)1111(代)

平成 28 年度主な活動の報告と予定

4/1

貸出!「人権本」新入庫 (子ども・大人用)

希望の方は、事前にお電話して来訪ください。
・本年入庫の主な本
「悲しみの秘義」(若松英輔著 ナナロク社)
「春が来るたびに思うこと」(3.11のエッセイ集 潮社)
「死んでいない者」(滝口悠生著 文藝春秋)・他

6/17

視察研修会 国際平和ミュージアム(京都市)

・内容：「平和を見つめて」
「平和を調べる」
「平和をもとめて」
の3展示
・専任ガイドで、約2時間交流



6/21

第8回「人権本巡回制度」 スタート(ぬくもりブックス フロー)

本センター蔵書と市図書館の人権本を学校へ1ヶ月ずつ巡回する制度。
本年は市内全小学校2コース(11校)
本内容：児童・先生用
各20～30冊

(市)図書館の協力を頂いています。(読書しおり)



7/11
/9/9

「ぬくもり標語・300字小説」 の募集

〈応募終了・入賞審査中〉多くの方の応募に感謝
・応募期間：7月11日～9月9日
・応募作品数：標語(2,154点)
300字小説(550点)
合計2,704点(昨年比+146点)
・テーマ：いじめ防止について

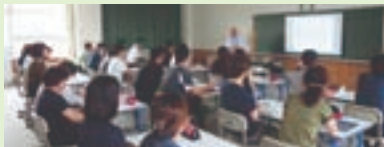


入賞審査の様子

8/25
他

出前講座 (夏期人権研修) (人権教育推進委員会)

・内容：人権的な視点からの振る舞い等



10/16
/11/6

街頭啓発(健康フェア・他)

・健康フェア(アーラ)
10月16日
・公民館祭り
(川合公民館)
11月6日



10/20
/11/8
/12/6

子どもぬくもり教室(予定)

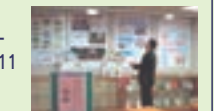
・第9回：兼山小学校
(10月20日)
・第10回：春里小学校
(11月8日)
・第11回：土田小学校
(12月6日)
・テーマ：個性を大切に



11/20
/11/26～12/11

人権展示会

・第1回：11/20
(市)文化創造センター
・第2回：11/26～12/11
(市)図書館(本館)



はじめに 61号では、本法律の制定の経緯と共に、人間として持っている平等と個性のいろいろを認識することで、障がい者への人権の大切さ、また本法律の守るべき事業者等を明示しました。

今回のあらまし 差別解消の一般的な対応の事例を上げてみました。また法律名が解消となっている点の主旨は、「心から理解して、やってはいけない差別を改善して無くそう」と言うことです。

障がいを理由とする差別とは？

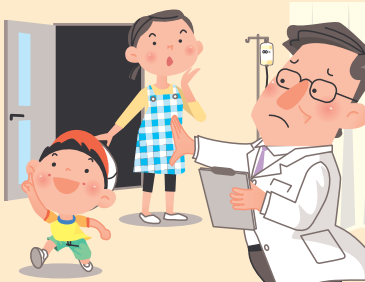
A 正当な理由がないのに、サービス等の提供を拒否・制限すること。

不当な差別的取り扱い

飲食店で車いすの人が移動できるスペースがあるのに入店を断る。



知的障がいや発達障がいなどの症状からじっとしてられない人に、病院の診察を断る。



B 社会参加することの申し出に配慮拒否したりすることはできない。

合理的配慮の不提供

目が見えないことを知りながら、商品やサービス内容を口頭で説明しない。



耳が聞こえないことを知りながら、筆談など音声以外のコミュニケーションをしない。



C 過去の法律等と合わせ、障がい者への配慮の欠乏等で自分勝手の恐れがあること。

人権的心得の欠乏

歩道への常時停車（団地等）



道路交通法・バリアフリー法にも違反しています。周辺事故の場合責任とされます。

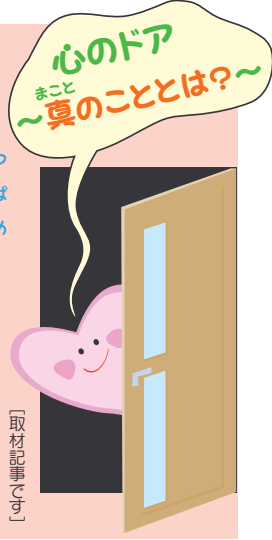


記者
後記

あなたは、心から障がい者のことを考えていますか？

それは上の例に対処しようとするあなたの心です。

- 私たちの心には、だれでも自己中心な心があるものです。自分に関係しない事にはたたえられますが、いざ自分の事となると出来ない理由を考え、他人の様子を見て待とうとします。この躊躇心が結果的に、障がい者の自立を妨げ、人権侵害を増長させる原因となります。
- 多くの障がい者が、個性として自由に当たり前の幸福な生活ができることを望んでいるのです。
- 今は、他人事ではない困難（聴・視・肢）な障がいの発生し易い高齢社会また交通事故の多い社会なのです。



実話「ツバメの恩返し」

取材記事です

★昨年の5月初旬のある団地でのこと。そこに住む一人の娘さんは、とりの空き家の騒音に驚き、あわてて庭に出ました。どうやら取り壊しのようでした。「どうしよう!一瞬で感じました。それは、その家のひさしに造られたツバメの巣のことでした。よその家とはいえ、娘さんは幼いころから、このツバメを見ながら育ってきたからです。

★すでにその年には、いつものツバメの家族が飛来して、巣作りの補修を始めていました。

★娘さんは、ツバメの家族のことが心配で、どうにか助けられないか思案しましたが、解体業者に言うしかありません。勇気を持って垣根越しに話してみると、業者さんから大家さんに話をしてくれました。そして、嬉しいことに工事延長することを快諾してくれました。それは、大家さんの若奥さんが、身ももっていたこともあったと思われれます。

★こうしたこの後、ツバメ家族の2回目の巣立ちとなった9月中旬の朝、ツバメの鳴き声が大いことに気付き、娘さんが外に出ると8羽位となったツバメ家族が、庭に立っていた娘さんの頭上と家の上を数回旋回して、天高く青く澄んだ空へ一気に舞い上がり、飛び立っていきました。ああ良かったと、ぬくもりの安堵感が娘さんの心に漂いました。

★ここまでの話は、某新聞に掲載され評判となり、このことを知った92歳の元医師が感動して娘さんに絵を贈呈してくれたと聞きました。

★この話の極めつけは、なんと!今年、そのツバメ家族が、助けた娘さんの家に巣作りを始めました。娘さん家族は、再び大歓びしたとのことでした。

(記者編)

まゆちゃん 22

「鳥になれたらいいなあ」
作:多々/画:miho



(本作品は、全て本職員でつくられています)

心の響き 可児ぬもりネットだより

今週のビタミンから

(本センターホームページ)

「世界は一つ、心も一つ」の祭典に感動!

今週のビタミン 発行日: 2012年8月13日 改編

- あの笑顔と涙の感動の祭典(リオデジャネイロ五輪)が閉幕しました。更に感動するだろうパラリンピックも開幕しました。
- 多くの国が、一同に集まり多くの競技が無事終わることを祈ります。
- 「だれでもができ、競い合えることこそスポーツである。貧富の差別なく友情を深めることが、いかに平和と人権尊重の拡がりに寄与するか」をクーベルタン男爵は、考えたのでした。
- どの国のアスリートたちも、この日のために4年間の困難を克服して、この日を迎えています。
- 世界の人の前で、今までのあらゆるものを濃縮して、一瞬をかけて闘います。この気性は、宝となり連綿と人生を飾るに違いありません。
- 五輪は、世界の平和と人権にとり大事な運動であります。国と国の戦いは戦争となり、人と人の闘いの五輪には、顔が見えるゆえに、友が芽生えます。
- 今、人類は、多く国々で人権の危機を抱えています。しかし近年、人間は、アフリカから生まれた兄弟であることがDNA証明されました。人としてこうして素直に感動できるのは、その遠い原点からの心が燃つてきているのです。この心が「燎原の火」となれば世界は、もっと仲良くなれるに違いありません。
- 闘いだから勝つ人も負ける人もいる。「負けても、覚悟を持てば負けない強い人間になれる」と負けた選手が教えてくれました。
- 「ほほえみが途切れそうなのは、思い出して欲しい。遠ざかりそうな夢を手繰り寄せ、駆け抜けた道を」と「コブクロ」の作曲「今、咲き誇る花たちよ」のソチ五輪の時の唄を思い出します。
- 苦難の切り立った細い道を必死に乗り越えていく中に、辛苦が幸せと変わることを教えてくれます。

「啓発のひかり」

★酷暑と大雨が続くと悲鳴を上げていても季節の移ろいは正しく秋を漂わせてくれます。

★人は、時に応じて次から次へと善悪は絶えませんが、

乗り越え方も人により違うもの。生まれと育ちによる生きる術が違うからです。原体験が違っているからこそ、助け合えるノウハウを持って、役目が出てきます。

一人では生きられないのは、すべての人の常であるから、遠慮などせずに声を上げそれぞれ役目を使わせてもらえばよいのだ。

★秋は、虫の鳴き声を聴くことや、道端に咲く紫色のリンドウの花からも安堵感を感じ、勇んだ月日を感めてもくれます。

★「自分は自分」と立ち止まって、何か小さくても違ったことをしてみると、新たな鋭気と術が見つかり生き甲斐が広がるように思います。

人生の味つけは、心一つで変わってくる不思議なもの、秋は、やはりいいものですね。

(編集者:川手靖徳)